

I 結果のポイント

II 全道の状況

I 結果のポイント

1 全道の状況

(1) 平均正答率の推移【P3～5】

- 全国との差が、前回と比較して、小学校国語Aで同じ、小学校国語B、算数A、中学校数学A、数学Bの4教科で縮まり、小学校算数B、中学校国語A、国語Bの3教科で差が広がった。
- 小学校は、すべての教科で全国との差が2.7ポイント（昨年度2.9ポイント）以内。
- 中学校は、すべての教科で全国との差が1.5ポイント（昨年度1.9ポイント）以内。
- 平成28年度の中学校第3学年が、平成25年度に小学校第6学年で調査を実施した結果と比較すると、全国との差がすべての教科で縮まっている。

(2) 各領域等の平均正答率【小学校：P6～7、中学校：P12～13】

- 小学校は、すべての領域等で全国を下回っている。
- 中学校は、数学A「関数」「資料の活用」、数学B「関数」で全国を上回っている。

(3) 質問紙調査【小学校：P8～11、中学校：P14～17】

- 児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、「国語の勉強が好き」な児童生徒や、「家で学校の授業の復習をしている」児童生徒、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合は全国を上回っているが、「1時間以上勉強している」児童生徒の割合は全国を下回っている。
- 学校質問紙調査では、小・中学校ともに、「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」学校や、「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」学校の割合は全国を上回っているが、小・中学校ともに、「家庭学習の課題（宿題）をよく与えた」学校の割合は全国を下回っている。

(4) 正答数の状況（下位層の割合）【P18～19】

- 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合は、すべての教科で全国より高い（小学校：2.6～3.9ポイント、中学校：1.6～2.4ポイント）が、前回と比較して小学校国語A・B、算数A、中学校数学A・Bで改善している。

(5) 全道の学校の平均正答率のばらつき【P20～21】

- 全国以上の学校が、各教科で、小学校は31.2%～40.9%であり、前回と比較して国語A・B、算数Aで改善している。中学校は41.7%～47.4%であり、前回と比較して数学A・Bで改善している。

2 管内の状況

(1) 管内の平均正答率のばらつき【P34～35】

- 全国以上の管内は、小学校では、国語Aで檜山、国語Bで上川、留萌、算数Aで檜山、中学校では、国語Aで石狩、渡島、檜山、留萌、十勝、国語Bで留萌、数学Aで石狩、上川、十勝、数学Bで石狩、上川。

3 市町村の状況

(1) 市町村の規模別の平均正答率【P94～96】

- 「大都市・中核市」は、小学校のすべての教科で全国を下回っている。中学校のすべての教科で全国を上回っている。
- 「その他の市」は、小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、前回と比較して小学校算数A、中学校数学A・Bで差が縮まっている。
- 「町村」は、小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、前回と比較して小学校国語B、算数A・B、中学校数学A・Bで差が縮まっている。

(2) 市町村の平均正答率の度数分布【P97】

- 全国を上回った市町村が各教科で35～70あり、前回（40～98）と比較して小学校国語A、算数A、中学校数学Aで増加している。